

見本 SAMPLE

【※】リアリティを追及したいとのご要望に基づき考証を行います。

東京・目黒区、午前2時。

住宅街の一角に佇む古いアパートの屋上に、ひとりの女が膝をついていた。

黒のコンバットスーツに身を包んだスナイパー、桐谷遥(きりたに・はるか)。

【考証ポイント】黒のコンバットスーツは目立ちやすいため、作戦の目的に応じた適切な服装を選択するのが合理的です。例えば、ダークカラーのカジュアルウェア(フード付きジャケットやスポーツウェア)であれば都市環境に馴染みやすく、プロフェッショナルな雰囲気も保てます。



彼女の前には、分解されたM24スナイパーライフルがハードケースに収まっている。

【考証ポイント】M24は銃身が機関部にねじ込まれて固定されている構造のため、分解・組み立てには工具と時間が必要です。また、スコープが機関部に直接取り付けられているため、組み立て後の命中精度に影響が出る可能性があります。

・狙撃ミッションで分解可能なモデルを使用する場合、FoldAR(左の画像)などの折り畳み式ライフルが適しています。これらは素早いセットアップが可能で、高い命中精度も維持できます。

・もしM24を維持する場合、すでに組み立てられた状態で運搬し、狙撃ポイントで最終チェックを行う描写にすると、現実的な運用が可能になります。

風が止む。

遥は無言でボルト、バレル、ストック、スコープ、サプレッサーを素早く組み上げていく。

動作は正確で迷いがなく、わずか12秒でライフルは戦闘態勢へと変貌を遂げた。

遥はスコープを覗く。

視界の先、150メートル先の資材置き場。

そこには、大型の燃料タンクと、それを囲むようにして数人の武装兵が煙草をくゆらせていた。

「……始める」

呼吸を整え、引き金を引く。

銃声はサブレッサーに吸い込まれ、ほとんど音を立てない。

【考証ポイント】サブレッサーは発射音を抑えますが、完全に無音にはなりません。例えば、5.56x45mm弾を使用した場合、135～145デシベルの音量が発生し、150メートル離れた敵でも聞こえる可能性があります。ただし、都市環境では音の反響があるため、発射地点を特定しにくいという利点はあります。

だが、銃弾は燃料タンクに命中し、次の瞬間、火柱が天を突いた。

【考証ポイント】現実では銃弾が燃料タンクに命中しても爆発しません。燃料自体が液体であり、可燃性の蒸気と酸素が適切な割合で混ざっていないと引火しにくいからです。

【よりリアルな描写の提案】

- ・あらかじめ爆薬を仕掛けるなど、爆発のトリックを組み込む。
- ・発火性の弾薬(焼夷弾)を使用し、引火の可能性を高める。

ドオオンツツ！！

凄まじい爆発音とともに、一人の敵が衝撃波で吹き飛び、後方の鉄骨に叩きつけられる。

跳弾が金属製のコンテナに当たり、火花が暗闇を照らすように散った。

【考証ポイント】一般的な銃弾は鉛と銅合金で構成されており、柔らかい素材であるため、着弾時に火花を散らしにくい性質があります。一般的ではありませんが、スチールジャケットで覆われた鉄製弾頭も存在し、こちらであれば激しい火花が散ります。

その一発で戦闘は始まった。

敵の応戦が始まる中、遥はすでにライフルを分解して背負い、建物内へ移動していた。

室内にはまだ誰も気づいていない。

遥は静かにサブレッサー付きのGlock 19を取り出し、リビングの扉を蹴り開ける。

「ツ——！」

敵が一人、振り返った瞬間、乾いた発射音とともに額に一発。

音は極小、隣人にすら気づかれない。

【考証ポイント】サブレッサー付きGlock 19(9mm)の銃声は、亜音速弾を使用しても129～144デ

シベル。これは隣人に聞こえるレベルですが、都市部の環境音に紛れやすいため、特定されにくい描写は可能です。

すぐさま敵の増援がなだれ込む。

遥はキッチンへ身を投げ、冷蔵庫を横倒しにして盾とする。

【考証ポイント】一般的な冷蔵庫は銃弾が容易に貫通します。液体は抵抗が大きく弾速を弱めるため、冷蔵庫内に大量の液体入りペットボトルなどがあると防弾効果の説得力が増します。

その背後からMP5を抜き、構えた。

「撃ち尽くすまで下がらない……！」

フルオートでの反撃が始まった。

銃口が火を吐き、敵の身体を正確に撃ち抜いていく。

長時間の連続射撃により、空薬莖が床を覆い尽くす。

【考証ポイント】MP5の発射速度は毎分800発になるため、長時間の連続射撃には膨大な予備弾薬を必要とし、現実的ではありません。2～3連射のバースト射撃がおすすめです。

弾倉が尽きかけた瞬間、遥は裏口から脱出し、夜の路地を駆ける。

後方から敵車両のエンジン音が追ってきた。

彼女は駐車された乗用車のドアを引きちぎるように開き、盾にして再び銃撃戦に入る。

【考証ポイント】防弾仕様車を除き、乗用車のドアは銃弾が貫通するため盾として使用できません。乗用車で盾として通用する部分はエンジンのみとなります。

銃弾が鉄板に弾かれ、火花が走る。

その瞬間、伏せた状態でMP5を構え、足元の敵兵に向かって連射した。

【考証ポイント】伏せ撃ちは安定しますが、近接戦闘では機動力が低下し、的になりやすいリスクがあります。よりプロフェッショナルな戦術として、遮蔽物を活用しつつ、低い姿勢で撃つ方法が有効です。

敵が倒れる。すぐに立ち上がり、真っ直ぐに腕を伸ばしてGlockを撃ちながら横移動。

【考証ポイント】移動時の射撃は腕を伸ばし切ると銃が安定しない傾向があります。肘を曲げて銃を顔(身体)に寄せながら射撃すると移動中でも高い命中率を得られます。

身体を極限まで安定させたフォームで、正確に二人の敵の眉間を貫く。

静寂が訪れる。

遥は再装填を終えると、暗闇の先にいる“彼”の気配を感じた。
かつての仲間にして、今は最も憎む存在——黒須。

戦いは、まだ終わっていなかった。